

東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

ているらんぷ

第1号 (2014年8月発行)



第2回総会 (2014年7月19日)

於：首都大学東京内レストラン、ルヴェ ソン ヴェール南大沢

＜おもな掲載内容＞

*数字は入学年度 (敬称略)

1～5頁 役員、幹事の言葉

(岡崎68、小島69、河本70、坂巻71、小西67、山崎72、佐藤95)

6～8頁 会員より (山口先生、戸部先生、坪井65)

9～11頁 総会欠席者からのメール紹介 (一部)

(倉本66、山崎70、武元73、金盛84、赤嶺94、田中98、吉原00、
進藤08)

「ているらんぷ」の編集方針について

「ているらんぷ」という部誌は第9号まで発行されましたが、部員の減少で1973年頃になくなりました。内容はその1年間にあった活動について、部員全員で割り振りをして書いたものを掲載していました。出場した他大学のラリーや府大戦、都立大ラリーのほか、遠征や合宿、運転練習などについて書かれていて、1年間の活動記録として、読み返すと当時の様子が甦って来ます。

知る者にとっては大変なつかしい「ているらんぷ」ですが、この名前が本会の会誌として復活するのは、あの「ているらんぷ」によって培われた部員の一体感、意識の共有を会誌にも求めているからです。

会誌編集の目的の第一は会員の皆さんから原稿をいただき、自動車部のこれまでの歴史を共有することです。そのため、これから次のような内容で皆さんから原稿を頂きます。

- * 学生時代の自動車部における思い出
- * 社会人として現況報告
- * 車にまつわる話 などです。

また、皆さんからの原稿以外に、残存する「ているランプ」から良さそうな記事も転載する予定です。

そして、会誌編集の目的の第二は、本会の活動や現役の活動の様子を会員に広報して、一人でも多くの会員が総会に出席して懇親を深めるようになることです。

さて、肝心の発行ですが、当面は総会の報告を中心にした会誌を8月に、会員からの原稿を中心にした会誌を2月に、半年に1回のペースで発行する計画です。会誌編集に関する一番のネックは原稿集めですので、どうかよろしくご協力の程、お願い申し上げます。

なお、労力や経費の関係で、会誌の印刷は考えておりません。編集したものを会のホームページにPDFファイルなどでアップするので、それをご覧頂くこととなります。年2回の発行にしたのも、「ているらんぷ」をご覧頂くと同時に、会のホームページをご覧いただけるからです。それが会員同士の情報交換、情報の共有につながると考えています。

「ているらんぷ」がホームページにアップされましたら、事務局からメールが行くと思いますので、ぜひ開いてみてください。

II 役員・幹事の寄稿II

「OB&OG会会長になって」

会長 岡崎裕（六八年入学）



会長になって一年を経過して、手をつけたばかりの事が多く、報告出来る事は少ないのですが、現状と今後の事について、私見も交えてお伝えします。

自動車部の創設は昭和30年なので、今年で59年になります。（ちなみに、府大は昨年60周年パーティーを行ったようです。）その間判明している人だけですが、在籍した部員は推定二七五名、連絡出来ている在籍者一五〇名、連絡が取れてはいないが、連絡先が判っている人は約二〇名、物故者は一〇名というところが現状です。その構成を見ますと、団塊の世代とモータリゼーションが花開く年代、昭和40年〜45年入学組が八三名（約一四名／年）と非常に多くの在籍者いました。それに反して昭和50年代と平成の始めにかけては、在籍者がほとんど判っていません。また平成の一桁台の在籍者は連絡先が不明だったり、返事の無い人がかなりいます。

◎総会は楽しく…知っている顔がいらない、年代が偏っていると話がつまらない等となると次回から来なくなる。参加者を多くする工夫をする。

◎自動車部の歴史を共有できるように…年代により活動内容が異なるし、大学の所在地も異なる。明確な資料、記録があれば話がしやすいしお互いに理解が出来る。

◎名簿をしっかりとしたものにする…卒業後どのような経歴をしているのか、同じ会社の先輩はいるのか、連絡を取りたい時にとれるようにする。頼れる先輩。

◎継続…総会は当然毎年開催する、またホームページの更新も定期的に行い、存在をアピールしておかないと上記の様な事は出来なくなる。当面は、我々の年代が中心に運営していく事になるので、しばらくは昭和の香りのする内容になるかも知れないが、各年代の幹事を充実する事が活動の幅を広げ、また継続につながる。

◎現役の活動充実…これが無いと当然人が増えませんので、寄付や活動への参加を行い、活動を盛り上げるよう支援する。

出来る事をしっかりと行い、基礎を固めて次の年代にバトンタッチ出来るように微力ながら努力していきますので、ご支援のほど宜しくお願いします。

最後に私の経歴です。昭和43年工学部機械工学科入学、四年で無事卒業し、就職は建設業の間組（現、安藤ハザマ）に入社し、建築設備関係に従事。設計、技術調査、現場等を担当。バブル崩壊に伴い、伊藤忠商事の子会社でビル管

理に従事。

車はシビック、オートマティック仕様、オートマでおとなしく運転するとマニュアルより燃費が良いそうです。

「自動車との付き合い」

副会長 小島彰（六九年入学）



都立大に入学した当時は勉学に燃えており、張り切って履修申請をしようと目黒校舎の通用門（後にこの門と勝負をすることになる）とはこの当時は知るよしもなかったが…をくぐると、「一万円で免許が取れる」という看板が目に入ってしまった。少し興味が湧いてきたので紺のユニフォームを着た人に話を聞くと、部車というものがあつて部員になるとエンジン付きの四輪車に乗ることが出来るという。

車は子供の頃から大好きであったが、それまでに運転したことのある四輪車は、乳母車を改造してハンドルを切れるようにし、重心を下げて公園のダートの坂道を駆け下っていた「ガーコート」と名付けた車だけである。「エンジン付きの四輪車に乗れる」という言葉に引きずられ、自動車部に入ることになってしまいました。それからは車漬けの生活が始まり、免許を取りに府中に、府大戦、運転練習に夏合宿と秋には都立大ラリーと部活が続き、部活の合間

にはアルバイトに精を出してガソリン代を稼ぐ毎日でした。アルバイトも車の運転の出来るバイトを選び、ガスタのバイトにリゾートホテルの送迎マイクローの運転手、新車の陸送等々。気がつけばあつという間に六年が経ち、卒業することになっていました。

社会人になってからは車に関わる仕事はしていませんが、自動車部で学んだことは、学業（たいしたことは学んでいませんが…）以上に社会に出てから役に立ちました。

今でも自分が選ぶ車は、「車高が少し高めでサスペンションが少し固めのマニュアル車」が基本になっています。

「自動車部OB&OG会を設立してみよう」

副会長 河本通郎（七〇年入学）



一万円で免許が取れるとの言葉に誘われて自動車部の部室を覗いたのは44年前でした。大学時の思い出は授業よりも部活動の記憶が多いのは幸せなことだと思う。ハンドルのまわし方やコースの取り方、コラムシフトの握り方を先輩から教わり、三年生時は構造担当となったが構造というより修理専門で点火系やブレーキばかり直していたように思う。

その後ホンダに入社しエンジン設計者としての仕事、第二期のF1活動でV12エンジン設計、アメリカの研究所勤

務、GMとの自動車開発等をしてきたが、自動車部で車漬
けの生活をしたことが役に立ったと思う。自動車関連産業
は日本の経済を大きく支えているが、自動車を理解するう
えで大学のカリキュラムよりも部活動の方が重要であつた
と思う。

定年後に自分の人生で重要な位置を占めていた自動車部
のOB会が全く機能していないことに気づき、また農工大
自動車部OBからOB会活動がしっかり行われていて、O
B同志の交流、現役との交流が活発なのを知って、農工大
に負けないようにOB会を再結成することにした。

まずは当時の志村先生、山口先生に連絡し、都立大（首
都大学東京）同窓会の協力も得てここまで来た。だいが会
員名簿がそろってきたので、これからはOBと現役やOB
同志の交流を活発にして、会員の皆様には飲み会だけでは
なく現業の仕事にもこの自動車部人脈を生かして行って欲
しいと願っている。その交流の場を総会・懇親会やホーム
ページで提供し、皆の役に立ちたいと考えている。

「ブラジル駐在記」

会計 坂巻雄二（七一年入学）

OB & OG会では会計を担当しておりますので今後とも
宜しくお願い致します。

二〇〇七年から四年半ブラジルサンパウロに赴任してお



りましたので現地で体験したエピソードをご紹介します。

治安が悪い事はワールドカップ開催時のテレビ放映でご覧になったかと思いますが、防弾仕様への改造費用が約四〇〇万円と高額な為、二〇一一年から普通車に変更となりました。

ところが普通車に変更した途端、半年の間にわが社の日本人駐在員が拳銃強盗に遭遇する事件が二件発生しました。二件とも帰宅途中（夕方六時頃）の街中で赤信号停車中（前後には他の車輛、歩道には通行人あり）の出来事でした。二〇歳前後の若者が車に近づき拳銃らしきもので窓ガラスをコンコンと叩き金を要求。これに逆らうと発砲される危険性がありますので素直に要求に従うしかありません。幸運にも一人は携帯電話、もう一人は財布と携帯電話のみの被害で済みました。その様な状況下で二人とも相手のポルトガル語を良く理解し、冷静に対処できたものと感心してしまいました。

今後ブラジルに行かれる人もいるかと思えますので安全に関するアドバイスを二つ紹介します。一つ目は夕方暗くなったら出歩く事は避け、例え百メートル先のコンビニに行くのにも車を使用すること。二つ目は流しのタクシーは絶対に使用しないことです。

「あるラリーの思い出」

監査 小西良造（六七年入学）

何度か出場した学生ラリーのうち、山口先生のブルーバードをお借りして、ドライバーの西川先輩と二人で参加したラリーは、特に思い出に残る。

二人制ラリーは初めてで、ナビと計算を一人で行わなければならず、不安な気持ちでスタートしたが、直後にミスコースし大幅に出遅れてしまった。それでも完走することを目指してレースを続けた。

ある区間では、速度指示が加速度表示になった。今まで経験したことのない速度指示に驚いたが、二台の手回し計算機を操作し、自信を持ってクリアした。

夜間ラリーだと、見通しの良い場所では等間隔にラリー車の灯火が並ぶが、加速度表示区間になった途端、間隔が崩れてきた。おそらく各車とも計算に四苦八苦していたのだろう。

救済措置を申請したものの、上位入賞はあきらめていた。しかし、成績が発表されると、部車で参加した正規チームを差し置いて、我がチームが優勝していた。加速度指示の区間も誤差秒は少なく、計算に誤りがなかったことを確信し、最後まであきらめずに全力を尽くせば良い結果が得られることを体感した。

（なにぶん半世紀近く経っているため、詳しいことは忘れてしまい、実際とは食い違っていることもあると思うが、ご容赦願いたい。）

「府大戦@一九七四」

幹事 山崎正喜（七二年入学）



一九七四年の府大戦は台風8号の来襲下で行われたが、関西地方に大きな影響はなく、雨は降ったもののラリー自体は無事に実施され、当然のことながら都立大の勝利で終わった。詳しい結果はまったく覚えていないので、ここで語ることはできないが、今も鮮明に記憶していることは帰路での出来事である。

台風の影響は静岡県で大きく、東名高速や国道1号線など主要な道路は全部通行止めとなってしまうのだ。中央自動車道がまだ全通していなかった当時、我々は名古屋から帰路に国道19号線を選択したが（これは当初よりの計画だったかもしれない）、これが大失敗であった。途中までは順調に進んでいたが突然大渋滞にハマったまま身動きが取れなくなったのだ。その渋滞はちっとやそつものものでなく、一時間ぐらいたく動かないこともあるもので、ハンドルを持ったまま後ろの車がホーンで起こしてくれるまで寝ていられるぐらいであった。原因は藪原宿と奈良井宿の間の鳥居峠のトンネルが狭く、東名等を迂回した大型車がすれ違うことができないためであった。どのあたりから渋滞となったのか記憶していないが、夜の初めごろに動かなくなつてそのまま朝を迎え、やつとのことで鳥居峠のトンネルを越えることができたのだ。

その後数年して、渋滞の原因となった鳥居峠のトンネル

は現在の新島居峠トンネルに付替えられ、今は旧トンネルは封鎖されて当時を偲ぶことはできないとのことである。

「自動車部OB&OG会に思うこと」

幹事 佐藤剛（九五年入学）

私は大学入学後すぐに自動車部に入部し、四年間を南大沢キャンパスのガレージと部室で過ごした。三年の秋によくやくEP71スターレットターボをOBから三万円で購入し、車検・整備を自ら行い、さらにLSD、ロールバー、アンダーガード等々を中古で買い集めJAFのダートトライアルに参加した。当時は当然お金もなく、カー用品店でアルバイトをして、バイト代以外に古タイヤをもらったり、客が残した余りオイルをこつこつ貯めたりと、工夫してどうにか維持していた。プラントメーカーに就職後もミラージュRSに乗り換え五年ほどダートトラを続けていたが、現在は一九六七年式のVWバスで旧車ライフを楽しんでいる。

本会では、OB&OGがそれぞれ自動車部で感じていた楽しさと苦労などを振り返り、共有することでOB&OG間の親睦を深めると同時に、現役部員の方々に自動車部員で良かった、楽しい大学生活だったと思ってもらえる、ささやかなお手伝いも目的の一つであると思っている。自動車を運転する楽しさ、モータースポーツの楽しさ、整備する楽しさ、構造を学ぶ楽しさを、世代を越えて共有するこ

とは、現役部員、OB&OG双方にメリットがあると思う。私がスターレットを手に入れたように、お金のない現役部員に、中古車やパーツを安価に譲ったりすることも支援と考えられるし、走行会や車のイベントに現役部員を誘うのも一案ではないだろうか。できることから一つずつ積み重ね、世代を越えて楽しい取り組みを進めていきたい。

総会の中で行われた
OB&OG会から現役
へのユニフォーム贈呈



II 会員からの寄稿 II

「15／60年間のTMUACとのかかわりと思い」

特別会員 山口元（元監督）



昭和40年4月より約15年間（終りの二年間は病氣療養）、一教職員の立場で部員と苦楽をともにいたしました。昨年の設立総会は体調もさることながら次の理由で出席をお断りしました。

昭和40年コマツエンジン研究所から大学に戻り、会社で得た最新機器や計測技術の知見を基に、当時の国産車のエンジン冷却方式の提案、車体形状の空力特性の定量化などに過酷なロードテストでデータを集積し、TMUACは今日に至る国産車の性能向上に少なからず寄与してきたと確信しております。また大学ラリーではTMUAC独自の計算法で関東の頂点、さらに府大戦での圧勝により日本一を極めたといえます。昭和42年にはTMUACラリー開催まで強行されました。しかし70年安保の大学紛争を経て、昭和49年以降は第一次オイルショックの影響で自動車に対する諸活動が急激に制約され主催ラリーも五回で中止、他大学ラリーも激減しました。

昭和55年1月、前田部長がイギリス遠征を計画、その準備を兼ねた出張中に部員の死亡（一年生一名、四年生一名）事故を起こしてしまいました。これまで全国を遠征・ロードテスト、数々のラリー出場、ラリーの主催など多くの活

動において物的事故は幾度かありましたが人身事故は皆無でした。この事故は部の活動ではなく部員によるプライベートルートな行動とはいえ、部長不在中における私の責任は大きく、以降はTMUACとのかかわりを絶っており、昨年の設立総会への対応となりました。

今回は、これまでの経緯を認識されたうえでの執行部の熱心な誘いもあり、また会員の皆さんにTMUACの15／60年間の足跡をお伝えできればとの思いもあつて敢えて出席を決めさせていただいた次第です。

昭和40年代にTMUAC在籍の皆さんの強い思い入れを抛りどころとした有志の皆さんの熱意によりOB&OG会が設立されました。今後この会が、60年間のTMUAC OB&OGをさらに掘り起こした上で、将来のOB&OGの皆さんと認識を共有できる環境がますます整備されることを心より期待しております。

「安全運転技術は一生の財産」

特別会員 戸部省吾（元コーチ）



私が自動車部の活動に参加させていだいたのは、一九七二年頃でした。私は長いことバイクに乗っていてなおかつ、免許制度の改変で、四輪車を運転したことがないまま、「普通自動車免許証」を取得してしまったため、四輪車の運転はずぶの素人。六八

く九年入学者の皆さんには、いろいろと運転の極意を教え
ていただきました。そのうち私も次第に頭角(?)を現し、
ますます車にのめり込んで行き、現在に至っています。

私は自動車部の活動に参加させていただいたことにより、
車を安全に走らせる総合的な知見を身につけることができ
たと思っています。それは単にドライブテクニクだけで
はなく、運転の心構えや、メカニズムについての理解など
を含みます。

現在でも私はどのような道路状況であっても、運転は楽
しいし、不安を感じることはありません。40年以上にわ
たつて無事故無違反です(特に速度に関しては違反してい
ないことはないのですが：こ)。

世の中に自分の運転に不安を感じていて、なるべくなら
運転したくないと思つている人は大勢います。そんな中で、
不安を感じないで運転ができ、違反・事故を起こさない技
術はやはり一生の財産と言えるでしょう。自動車部の皆さ
んに感謝しています。

「東京都立大学体育会自動車部」

坪井一弘(六五年入学)

歳月の経つのは早いものだ。半世紀だ。部長の前田稔幸
(としゆき)工学部教授に、お会いして50年。先生の当部
に対する執念愛情は並ならぬものであった。先生と奥様に
は、当部公私ともお世話になり心からお礼申し上げる。

一九六五年、僕たちは東京オリンピックの余熱も冷めや
らぬ駒沢と目黒に入学し、女子六名を含め同好会自動車部
に入った。当時も受験競争は凄まじく、受験した学部の倍
率25倍ほどであった。定員が少なく、学生より教員のほう
が多いゼミ研究室もあった。濃密な指導、人間関係が築け
る贅沢な学問環境であった。で、猛烈に勉強しようと思つ
たのだが：：

体育会でない自動車部に入り、五月の東大五月祭ラリー
で優勝した。数の上での弱小零細大学が、東京大学主催の
ラリーで勝利したのだ。以降、代表して出場だから、優勝
のみ、二位ではだめだ。となった。

やがて、第一回都立大ラリー開催をした。遠征と称して
日本国内全県を走破した。高速道路はなくまだ未舗装の国
道が主流で一回二千kmくらいの走行であったが、大事故、
大故障は記憶にない。先生のご指導、チームワークの賜だ。
記録のため大部な部誌も発行した。

何度も辞めようかと思つたが、その都度、先生や友人か
ら助けられ、続けてきた。常に友情には感謝するのみだ。
未だに交誼は続く。優秀な先輩に続き、皆、社会的にも家
庭的にも素敵な生活を送られていることを見聞きするにつ
け、自動車部ありがとう、と。

自動車部で行っていたのは、人間教育だったと改めて思
う。卒業後大半を過ごした銀行での生活の支えとなった。
卒業したのは、体育会自動車部に違いない。諸兄姉の、ご
健勝を心からお祈りいたします。

五時半起床、九時半就寝。転勤族（15年前まで）。現在28度目の勤務先で顧問、裁判所各委員、順番で町内会長。趣味の韓国語、古典文学学習、歴史研究、文化財委員と、悠々自適を目指していますが。

車は十代目、フィット（妻と、いろは以外同一ナンバー、同一車）。日が暮れたら、運転はしない。

昨年度 ラリー 戦績

66.	5.	東大	優勝
	6.	電通大	5位 9位
	7.	府大戦	優勝 準優勝
	11.	東工大	7位
		一般	優勝
		成蹊大(対)	優勝
		農工大	5位 6位
		神奈川学生自動車連盟(対)	優勝 5位
	12.	電通大	3位
67	1.	農大	7位
		一般	優勝
	3.	関東学生対抗(対)	優勝
	5.	千葉大	3位 5位
		東大	優勝 準優勝
	6.	電通大	2位 5位
		一般	優勝
	7.	府大戦	優勝 準優勝

原稿に添付された坪井氏の資料

材料道中記 坪井一弘

3月17日

「昨日迄の準備も終り、隊員は一時的に全員集合する。隊員の「昨夜見た夢はなんだろう。果てない九州遠征の門出の時は時々刻々と迫り来る。幸にガソリン、軽油を入れに何か。ああ、愈々出発の時は来たんだなあ。長い準備期間に手ぬかりは無からさうか。果に無事故で東京迄全員戻れるだろうか。途中のトラブルは無事だろうか。運行は順調に進むだろうか。嘗て予わすらひの種となることである。」

遠征も回を重ねる事13回。その間に多くの予かがあったに違いない。か。今回は過去のそれと相当に趣を異にする。それは研究測定を例の如行なわない点である。

一回都立大ラリー

名称	一回 都立大ラリー
目的	1. 交通道徳の再認識 2. 安全運転の励行 3. モータリゼーションの一般普及 4. ラリーを通じて肉体的・精神的両力の養成
期日	昭和42年11月3日(文化の日)
集合	午前7時00分(本学)深沢理工学部
出発	午前7時30分より
距離	120km前後
開会式	17時30分
説明会	10月28日(土)午後5時より 深沢校舎工学部講堂
乗車人員	出場車の定員以内
参加資格	一般部門 一般学生(及びに社会人) (但し現役自動車部員を1名まで含む事が可也) 学生部門 現役自動車部員を2名以上含むその ドライバーは免許取得後1年以上の者
参加車輛	3.4(ワトバンのみ)5ナンバー及び軽4輪乗用車
参加費	1チーム 1,000円
大会役員	大会会長 東京都立大学体育会自動車部部長 前田 稔 幸 大会運営委員長 東京都立大学体育会自動車部監督 山口 元 審判委員長 東京都立大学体育会自動車部コーチ 志村 和 泰 実行委員長 東京都立大学体育会自動車部主持 坪井 一 弘 審判委員会 東京都立大学体育会自動車部員 08 より構成

- 1 -

Ⅱ 総会欠席会員からのメール紹介（一部）Ⅱ

●六六年入学 倉本直之

今回の総会、懇親会へは、家庭の事情により家を空けることができないため、残念ながら欠席とさせて頂きます。

昨秋OB&OG会設立のご案内を頂き、またホームページの会則案などを拝見して感じたところを、岡崎さんにメール致しました。私にとっては、自動車部がこの時代まで存続していたことが若干驚きでしたが、何はともあれそれだけ幅広い年代層のOB&OGを擁するわけで、様々な経歴、境遇、居住地の方々が、同じ学校の自動車部経験者と言う縁で、交流を図れることはとても嬉しい事と思っております。ぜひ、あまり堅苦しい運営に傾かず、様々な事情を持つOB&OG各人が都合のつき次第、または気が向き次第、何時からでも気楽に躊躇無く、昔の仲間もしくは一世代の違う仲間に加われるよう願っております。役員、幹事等の皆様には大変ご苦勞様ですが、よろしくお願い致します。

さて私の近況ですが、十年前に妻が病を患い、身体障害者となったことで七年前の定年を機会に介護を第一とする生活をする事に致しました。さいわい、現在は障害者支援制度による訪問ヘルパーが利用できるので、平日の午後等に自由な時間がとれるときには、自分の健康維持のため、自転車（ロードバイク）で近郊を走ったりしています。先日は、南大沢・首都大の少し先の、旧（通称）町田戦車道路まで足を伸ばしました。今では自動車進入禁止の尾根緑

道として整備されていて、自転車コースとしては快適そのものですが、昔の自動車部時代には手近な悪路運転練習やラリーの練習に利用した思い出のある場所です。

ややだらだらとしたメールになりましたが、総会、懇親会が盛会となるよう願っております。

●七〇年入学 山崎公子

ご案内有難うございました。七月十九日、二十日は名古屋での仕事があり、今年も残念ながら欠席させていただきます。大学も昔と違ってのんびりできず、ひたすら論文書きに追われています。定年まで三年を切りました。定年後の生活を夢見て、後二年は論文書きと学会発表を頑張ります。ただ、最近は発表する海外での学会は開催場所を選ぶようになってきました。今年は、リスボンとバリ島の予定です。

年末の忘年会で皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

●七三年入学 武元晴彦

一九七三年入学、一九七七年卒業で、北村、峰、白井と同期です。マツダのサバンナとギャランFTOに乗っていました武元です。大勢の懐かしい皆さんにお会い出来なくて、本当に残念です。

もう、卒業してから三七年も経ちますが、八雲での部活

は今でも強烈にかつ鮮明に脳裡に焼き付いています。汚なかつたガレージ、雨の日は泥々のピット：どれもこれも懐かしい思い出です。私は卒業後は遠く富山県黒部市の企業に就職しました。大学名や所在地も変わってしまったので、自動車部とは縁遠くなりました。いま部活では何をしているのかな：ラリーは今でもあるのかな：ラリーを開催しているのかな：府大戦も続いているのかな：など心の片隅ではいつも気になっていました。

私事ですが、五六歳にして初めてマニュアル車からオートマチック車に乗り換えました。マニュアル車が少なくなつたこともありませんが、やはり歳には勝てません。また、六月三〇日付けでYKKを定年退職し、富山県黒部市から生まれ故郷の石川県七尾市へ戻り、第三の人生を歩みます。お近くへお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

最後になりましたが、今後の自動車部の活躍と皆様のご健康をお祈り致します。

●八四年入学 金盛達朗

一九八四年入学の金盛です（当時は中野を名乗っていました）。総会のお誘いをいただきましたが、現在、（株）ブリヂストンに勤務してトルコに赴任中のため、残念ですが参加できません。不参加ということでお願ひします。

《現役の皆様へ》

時々現役の皆さんの活動をブログで拝見しております。最近ではジムカーナへも参加されているようで、我々の時代

と大きく様変わりしている様子に驚いています。一方、お金を掛けずに創意工夫で車を維持されている様子等、当時を思い出させていただける内容もあり、驚きとともに懐かしさも感じながら楽しく拝見しております。これからも安全には細心の注意を払いながら、それぞれの車生活を楽しんでいただけると幸甚です。

トルコの治安は、一部報道のように全土で大騒ぎになっている訳ではなく、ある限定された地域&時間で、一部の人々がヒートアップしている状況です。これは、世界中どこでも一般人が立ち入ってはいけない地域があり、知らずに入り込むと痛い目に合うのと同じようなものと思つていきます。と、言うわけで、一般的には極めて平和です。

●九四年入学 赤嶺勝之

自動車部OB会のご連絡、ありがとうございます。残念ながら総会予定日の七月十九日は先約がありまして、申し訳ありませんが今回も不参加となります。是非一度お会いして当時の状況等、お聞きしたいと思つておりますが非常に残念です。

近況につきましては、県機動隊の小隊長として福島第一原発をはじめとする日本各地へ派遣に出たり、県内の大規模イベント等における警備実施に従事しています。車を楽しむ時間がなかなか取れず、寂しい思いをしています。

また、次回は可能な限り参加できるように、仕事も調整したいと思つたので、今後ともよろしくお願ひ致します。

●九八年入学 田中千春

自分が現役の時分はOB会というのが存在しているのかどうかも知らず現役のみで活動していたので、最近時OB会と現役部員が交流を始めたというのを伺い、うらやましくまた部員としてのつながりがあることをとても嬉しく思っています。佐藤さんからOBの方々がさまざまな業界で活躍されている(いた)方がたくさんいるというのを伺い、いろいろと面白いお話が伺えるのではと思っっているのですが、大変残念なことに現在海外に居住しているため参加することができません。一時帰国の際などにイベントが重なるようなことがあればぜひ参加させていただきたいと思っっています。自分の近況についてですが、差し支えなければご紹介いただければと思います。

卒業後、十年間ホンダにてサスペンション設計をしていましたが、二〇一三年より渡英し、Formulaというレースカテゴリに参戦するチームの一つであるSahara Force India Formulaというチームに参加。車体側の設計として、燃料系をメインとした設計をしています。(チームWebsite: <http://www.forceindiafl.com/>)

二〇一四年は大きなレギュレーション変更の年であり、エンジンが大きく変わったためチーム間の勢力図に変化がありました。その中で小規模チームながら信頼性の高い車体を作り上げ現在コンストラクターズランキングでも四位という位置につけています。同じ都立大自動車部の卒業生

が設計に関わっているということでも少しでも興味を持っていただければ幸いです。

こちらに来る一、二年ほど前まで大学のガレージによく顔を出していたので現役の子でもまだ知っている学生さんもいます。OB会の活動が盛り上がって、現役の子達が更に活躍できるようになるといいですね。何かの機会に活動にも参加できればと思っっています。それでは。

●〇〇年入学 吉原政志

初めまして、二〇〇五年卒業の吉原と申します。OB&OG会ですが、今回はちょうど海外出張に当たってしまったため不参加とさせていただきます。

近況としては卒業し、会社に入社して十年が経ちました。結婚し、子供もでき、家も購入し、何とか人並みに暮らしています。卒業後ほとんど大学にも、自動車部の仲間とも会っていませんので、今後このような機会に顔を出せればと思っっています。

●〇八年入学 進藤淳哉

自動車部OBの進藤(二〇一四年卒)です。連絡が遅くなり、申し訳ございませんでした。総会には是非とも参加したいのですが、入社一年目ということもあり、配属先によっては参加が困難なため、現状保留でお願いします。また決まり次第、連絡させて頂きます。よろしくお願い申し上げます。

げます。



II 編集後記 II

佐々木功（六八年入学）

この「ていいるらんぷ」創刊号は、岡崎会長の「復刻版」発行への熱い思いと、編集長・甲田さんの編集へのこだわりの結晶だと思っています。早速、山口先生、戸部先生より、お二方のお人柄がにじみ出た、示唆に富んだお言葉をいただきました。又、自動車部黄金時代の礎を築かれた坪井先輩からは、その時代を彷彿させるようなお話、まさに、創刊号に相応しいものでした。一方、現役員、幹事の皆さんの言葉には、自動車部を愛する熱い心がDNAとして伝わってきますし、若きOB&OGのお便りからは、進化する自動車部員の姿が浮かび上がってきます。第二号以降、乞うご期待。

甲田益通（六九年入学）

今号は総会に出席された方に原稿をお願いしましたが、ほとんどの方が締切りに合わせて原稿を送って下さいました。原稿用紙一枚半程度の短い原稿ですが、逆に文字数を収めるのにご苦労されたことと思います。おかげさまで、こうして第一号を発行することができました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。また、総会当日に写真を撮って下さった伊藤さんと藤村さんには、無断で写真を使用させて頂きました。紙面に変化が生まれ、編集に大変助かりました。併せてお礼申し上げます。「ていいるらんぷ」を通じて、多くのOB&OGが出会えることを願っています。